



# 二輪草だより

平成28年2月号  
発行:二輪草センター

センターの活動予定 ◆3月下旬 二輪草プラン推進委員会議 二輪草だより3月号発行

## 旭川市少子化対策パネルディスカッション参加報告

二輪草センター 山本明美センター長

2015年12月16日、旭川市大雪クリスタルホールで旭川市が主催する旭川市の少子化対策を考える討論会に出席し、意見交換をしてまいりました。地元の企業の一つとして、旭川医科大学がこれまで展開してきた、働きやすく学びやすい環境づくりの工夫、地域卒学生の地元への定着の効果などを紹介させていただきました。討論の様子は旭川ケーブルテレビで放映されました。



旭川医科大学 皮膚科学講座教授・二輪草センター長 山本 明美 氏

## 「大学医学部・医学会女性医師支援担当連絡会」参加報告

2015年12月18日、東京の日本医師会大講堂で行われた「大学医学部・医学会女性医師支援担当連絡会一よりよい男女共同参画を目指して」に参加させていただきました。笠井英夫常任理事より、日本医師会の女性医師支援に関する取り組みについての説明があった後、事例報告として、大学から旭川医科大学、久留米大学、学会から日本循環器学会、日本リハビリテーション医学会の取り組みが報告されました。

はじめに山本センター長より、「医師不足・少子化地区における医科系大学の取り組み」と題して旭川市の人口減少・医師不足の問題と、二輪草センターの活動内容・女性医師支援の必要性についての説明がありました。8年間活動してわかったことは、多くの方を巻き込むことによって、自分の問題だと当事者意識をしてもらうことが大切であると話され、今後の課題として、超時間労働を止めるにはどうするか？妊活支援をどうするか？などの話を



され、会場内ではメモを取っている方がたくさんいらっしゃいました。2番目は、久留米大学病院男女共同参画事業推進委員会の守屋普久子先生より、久留米大学病院「元気プロジェクト」についての説明がありました。平成26年度よりキャリア教育の導入・充実、女性医師の就労支援・勤務医の労働環境の見直しを3本の矢として活動され、H27年度よりパート医師制度を導入し、2名採用したところ収益38%増、待ち時間が短縮され超時間労働の改善に役立っているとのことでした。

3番目は日本循環器学会男女共同参画委員長の瀧原圭子先生より、循環器内科を専攻する若い女性医師が減っているの、専攻しやすい環境整備が必要だとして、日本循環器学会の取り組みについて、出産・育児・介護との両立支援 キャリアアップ支援などの様々な支援内容の説明がありました。

4番目は日本リハビリテーション医学会の、水間正澄理事長より①リハビリテーション科は女性が働きやすい診療科で、体力における男女差がでにくく、小児医療・介護・コミュニケーション能力などを発揮しやすい、チーム医療の特徴をいかせばオン、オフがはっきりし予定の立つ勤務体制がとれ、ワークライフバランスの視点からも不利は生じにくい診療科であること、②2018年には、学術集会初の女性会長がリハビリテーション科から誕生することの紹介があり、男女差がないことが強調されました。本会への参加を支援してくださいました日本医師会、北海道医師会の皆様に感謝申し上げます。

5番目は、吉田学長からの修了証書を上田看護部長を通じて手渡されました。初日の緊張した表情がこんなにも変わることに感動しました。今年度の研修者は仲間意識が強く、今後職場が違って研修で得たネットワークを大切に、それぞれの場でぜひ看護の力を発揮してほしいと思います。



## 平成27年度「看護師と助産師のための復職支援研修」終了報告

看護職キャリア支援職場適応支援担当 菊地 美登里

平成28年1月25日(月)～29日(金)に、第6回目の復職支援研修を実施しました。看護師8名、助産師1名の参加があり、長いブランクの方で10～17年、旭川市以外の遠方から参加された方もいらっしゃいました。5日間の研修プログラムは、講義・看護技術演習・病棟実習でした。1日目は、看護師の方は上田看護部長から「医療看護の動向について」助産師の方は原口副看護部長から「周産期医療について」の講義があり、続いて三嶋副薬剤部長から「注射剤に関する基礎知識」について、医療安全管理部専任リスクマネージャー小山内看護師長から「医療安全について」の講義がありました。最後に、感染制御部感染対策平瀬看護師長より「感染対策の基本」の講義と手指衛生・PPE着脱の実技を行いました。皆さんうなずきながら真剣に受講していました。



2日目・3日目は看護技術演習を行いました。「BLS」では、救命救急センター伊藤副看護師長(救急看護認定看護師)、鎌田看護師の指導のもと、気道確保・胸骨圧迫法・AED使用法の一連を実施しました。看護技術演習は、1グループ3人とし看護職キャリア支援看護師長が担当しました。「採血」「末梢静脈注射」「筋肉注射・皮下注射」などでは、最初は「手が震える」と言っていた研修者も徐々に勘を取り戻しブランクを感じさせないほどでした。手技の習得のみでなく、安全確認の重要性を理解してもらう演習としました。

4日目・5日目の病棟実習では担当看護師とともに行動し看護場面を見学・体験しました。研修者からは「患者さんに接したことで看護の仕事が好き、患者さんの事をもっと知りたいと思えた貴重な時間になった。子育てと仕事を頑張っている担当看護師の姿を見て自分も頑張ろうと思った。久しぶりに出産の場面に立ち会うことができ感動した」と話されました。また、短い実習時間でしたが病棟看護師のチームワークの大切さにも関心を向けてくれました。

研修最後のフリートークでは、「初日の看護部長からのブランク中の子育てや社会参加の経験がすべて看護に役立つという言葉に自信を持つことができた。また、5日間の研修は、家族に復職を理解し協力してもらうよい機会になった」と話され、全員から復職に向け自信になったとの言葉を聞くことができました。

最後に、吉田学長からの修了証書を上田看護部長を通じて手渡されました。初日の緊張した表情がこんなにも変わることに感動しました。今年度の研修者は仲間意識が強く、今後職場が違って研修で得たネットワークを大切に、それぞれの場でぜひ看護の力を発揮してほしいと思います。

## 病児一時預かり室、バックアップナース、病児・病後児保育室、カウンセリング相談 【1月20日～2月19日までの利用状況】

病児一時預かり室	依頼回数	0回	利用回数	0回
バックアップナース	依頼回数	36回	稼働回数	35回
病児・病後児保育室	依頼回数	9回	利用回数	9回
カウンセリング相談			利用回数	4回

\* 病児一時預り室、病児・病後児保育室は全職員・学生がご利用になれます

【お問い合わせ先】 旭川医科大学 二輪草センター(復職・子育て・介護支援センター)  
〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1  
TEL 0166-69-3240(内線3240) サンニンヨレ FAX 0166-69-3249  
開設時間8時30分～17時15分 E-mail: [nirinsou@asahikawa-med.ac.jp](mailto:nirinsou@asahikawa-med.ac.jp)  
ホームページ <http://www.asahikawa-med.ac.jp/hospital/nirinsou/>

